

1.はじめに

JA三島函南は、静岡県伊豆半島の玄関口に位置し、三島市と函南町の1市1町からなるJAです。こちらでは、地域性を活かした多品目の農産物が栽培されています。

なかでも、箱根山西側に位置する中山間部で栽培される高品質な露地野菜を、「箱根西麓三島野菜」と銘打ち、商標を登録し、地域ブランド野菜として名声を高め販売しています。平成28年10月には、代表品目である「三島馬鈴薯」が地理的表示(GI)保護制度に認定登録されるなど、野菜産地として更なる発展が期待されています。

2.当JAエダマメ出荷組合

当JAにおけるエダマメ栽培の歴史はまだ新しく、出荷組合が設立されたのは平成27年のことです。管内でのメイン品目の1つであるレタスの栽培後、夏場に収穫できる品目を模索していたところエダマメにたどり着きました。初年度はレタス生産者3名で作付をスタートし、平成29年は4名に増えました。

当初はレギュラー品種のみの栽培でしたが、消費者ニーズの強い茶豆風味品種を今年度より導入することになり、特に食味評価が高い「味風香」を選びました。

3.「味風香」⇒「夏風香」の
リレー栽培導入へ

レタスの後作だと土壤中に残肥が存在するため、多肥に敏感な品種を栽培すると節間が伸び、着莢数が著しく低下してしまう可能性があります。しかし、「味風香」は草丈と着花・着莢のバランスが良く、期待以上の収量を上げることが出来ました。また食味についても、「豊熟の味わい」に相応しい香りと味わいから首都圏の市場を中心に高評価をいただき、「味風香」を指名するバイヤーもいると担当者から伺いました。

課題として、黄化が早く収穫遅れによるロスが懸念されるため、しっかりと収穫時期を見極めたうえで播種計画を策定する必要があります。今後も雪印種苗の担当者と密接に連携し、無理のない計画のもと、栽培を進めていけたらと思います。

また、「豊熟の味わい」シリーズ第二弾である「夏風香」も導入し、「味風香」との

リレー栽培を試みました。「夏風香」は「味風香」の課題点であった色の淡さや黄化の早さが改良されており、今後盛夏期における中心品種として活躍を期待しています。

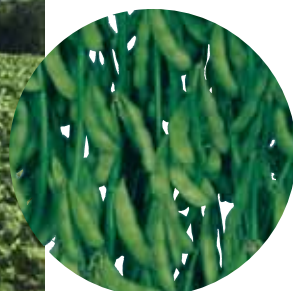
4.おわりに

エダマメ栽培の導入により、従来収入のなかった夏場における貴重な換金作物が生み出され、JAグループが提唱する農家所得の向上に大いに貢献できました。それに加えて、農作業パートの年間を通した安定雇用という思わぬ副産物を得ることもできました。

JA三島函南エダマメ出荷組合は、設立3年目を迎え栽培技術や知名度も安定してきた中で、これからも努力を重ね、消費者に選ばれる良質なエダマメづくりを目指します。そして、いつの日か「箱根西麓三島野菜」の基幹作物となるよう日々励んでいきます。



▲ 「味風香」栽培風景



「味風香」



「夏風香」



▲ 「夏風香」出荷袋